

令和5年12月
秩父市教育委員会 定例会 議事録

開 会 : 令和5年12月27日(水) 午後2時00分
閉 会 : 令和5年12月27日(水) 午後2時50分
会 議 場 : 本庁舎3階庁議室

出席委員 : 1番委員 山中 直子
2番委員 大島 隆芳
3番委員 浅海 純一
4番委員 萩原 重範

出席者 : 教育長 前野 浩二
事務局長 笠原 義浩
事務局次長兼学校指導監 板倉 邦弘
事務局次長兼文化財保護課長 堀 宏行
教育総務課長 杉田 泰三
学校教育課長 磯田 欣央
保健給食課長 井上 夏美
教育研究所長 飛川 成正

書 記 : 教育総務課主幹 大池 伸吾
教育総務課主幹 中里 芳隆

1 開会宣言

教 育 長 : 令和5年12月教育委員会定例会の開会を宣言する。

2 署名委員の指名

教 育 長 : 本会議の議事録署名委員として、1番委員及び3番委員を指名する。

3 会議の公開

教 育 長 : 本会議は、公開とすることでよいか。
(「異議なし」の声あり)
異議なしと認め、公開とする。

4 前回会議の議事録の承認

令和5年11月30日に開会された11月秩父市教育委員会定例会議事録の朗読を事務局が行い、出席者の異議なく承認された。

5 報告事項

(1) 教育長及び各委員からの報告事項

教 育 長 : 児童・生徒は、長かった2学期も12月22日に終業式が無事に終わり、楽しみにしていた冬休みとなった。園長・校長をはじめ、教職員及び学校を支えていただいた保護者や地域の皆様の御協力に感謝申し上げます。また、御心配をおかけし増加傾向にあったインフルエンザ罹患者は、各学校の対応も大変であったと思うが、18日月曜日からの週には激減し、秩父地区全体でも減少しており、そのまま冬休みとなったため、現在も罹患している児童・生徒は少ないものと思っている。

1点、報告する。

令和6年度の小・中学校の児童・生徒数と学級数について、12月現在の予定数を報告する。

まず、令和6年度久那幼稚園は、年長のみ3名となり、卒園とともに令和6年度末をもって閉園となる。次に、小学校13校の児童数は、2,553名、今年度比68名減少、現在保留がかかっている学校もあるが解除を見込んだ学級数は、通常学級104学級、今年度比2学級減少、特別支援学級35学級、今年度比2学級増加となる。また、中学校8校の生徒数は、1,363名、今年度比72名減少、小学校同様保留がかかっている学校の解除を見込んだ学級数は、通常学級41学級、今年度

比3学級減少、特別支援学級16学級、今年度比1学級増加となる。

小・中学校の合計は、児童・生徒数3,916名、通常学級145学級、特別支援学級51学級となる。今後、この保留の解除をもって、学級数が確定し、教職員の定数も確定していく予定である。

1 番 委 員 : 今年も残すところ、あと4日となった。過ぎていく一日が毎年早く感じる。今年の5月から新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症となり、学校の行動制限なども徐々に緩和されてきた。子どもたちの学校生活も活気を取り戻してきて本当に良かったと感じている。

1点、報告する。

子どもたちの学校や家庭での様子を保護者から聞いているので、報告する。

2学期は、運動会や体育祭、文化祭や持久走大会などの学校行事のほか、学年別の社会化体験などもあり、子どもたちは目標に向かって楽しみながら取り組んでいたようである。

保護者からも、「学校行事など今年は制限なく開催されており良かった」との声が聞かれた。中学3年生の保護者からは、「1学期・2学期前半では、学習になかなか身が入らなかったが、最近になり目標校なども定まってきたこともあるのか、家庭でも頑張って勉強している。体調面に気を付けて自分の志望校に向かって頑張ってもらいたい」との声が聞かれた。受験生を持つ家庭では、受験まで体調管理や栄養管理など、家族皆で気を付けることもあり大変かと思うが、受験生が安心して受験に臨めるように、励まして身守ってほしいと思った。

また、不登校ぎみの子どもを持つ保護者からは、「学校になかなか馴染めず、学校に行くのを渋ることもあるが、担任の先生や養護の先生の励ましもあり、遅刻しながらも学校に行くことができているので、本人の頑張りと先生方の支えに感謝している。学校の先生方には色々と相談に乗ってもらってはいるが、学校がどういう方針や考え方をしているのかなど話していただくと助かる」という声が聞かれた。

また、不登校の子どもを持つ保護者からは、「家庭にパソコンを持ち帰って見れるように、授業の黒板だけでも写してほしい」という声が聞かれた。GIGAスクール構想で、パソコンの活用が子どもたちのニーズに合わせて、活用の幅も広がってきていると感じているが、まだ完全にはそうなれていない現実を感じた。GIGAスクール構想が始まってから数年なので、各学校それぞれに課題があるのかと思うが、学校を上げて不安を感じている子どもたちや保護者の声には耳を傾けていただきたいと思った。

また、声を上げられない子どもたちや保護者も中にはいると思う。学校や地域の連携を図りながら、不安や悩みを抱える子どもたちや保護者には、近からず遠からず寄り添っていただきたいと思う。

コロナ禍後、子どもたちが不安や無気力を感じるようになったという新聞の記事を読んだことがある。学校生活もコロナ禍以前に戻りつつあるが、子どもたちの些細な変化に気が付けるように、学校・家庭・地域の連携と見守りが大切であると思う。教育委員会からも、各学校への極め細やかな指導や助言をお願いしたいと思う。

2 番 委 員 : 12月2日・3日、秩父神社例大祭ということで、秩父夜祭が例年に近い形で行われた。また、3日は「伝統文化に親しむ日」となっており、子どもたちも夜遅くまで親に付いて祭りに参加し、手伝いをする姿なども見受けられた。無事に祭りが終わったことを安堵している。自分からの報告は特にない。

今年は新型コロナウイルス感染症が5類に移行して、通常の色々な行事等が無事行われた中で、我々教育委員としては不登校、教員の働き方改革、部活動の地域移行などに関して皆様と討論をしてきた。

また、各学校とも大きな問題等もなく無事やって来られたのも、校長をはじめ教職員の方々そして市教育委員会の見守りによるところだと改めて感謝を申し上げ、感想とさせていただく。

3 番 委 員 : 1点、報告する。

12月21日、オンラインで実施された令和5年度市町村教育委員会研究協議会の内容についてである。

前半・後半に分かれており、前半は行政説明ということで、初等中等教育施策の動向について、初等中等教育企画課の堀野氏から1時間にわたる説明があった。その中の一部について、ここで報告をさせていただきたい。

まず、この行政説明に入る前に、冒頭で堀野氏から教育委員の立場について、「教育委員会の事務局サイドではなく、それぞれの職歴や、現在の立場を踏まえて、市民側の感覚を忘れずに職務に当たってもらいたい」という話があった。それからもう一つ、「市長との総合教育会議の開催を何月・何月・何月とルール化するのも良いが、適宜的確なタイミングで開催し、行政の福祉部局との連携もさらに進めていただきたい」という話もあった。

本題に入ると色々な説明があったが、その中で中教審の令和の日本型学校教育の構築ということで、「質の高い教師の確保特別部会」というものがあり、その中で教師を取り巻く環境整備に関して緊急的に取り組むべき施策について、強調して言及があった。

各学校における授業時間の見直しについて、全ての学校で点検をして、特に標準授業時数である年間1,086単位時間を上回っている学校は、見直すことを前提に点検を行うことを強調していた。授業時間の確保というのは大切な事であるが、働き方改革を踏まえてぜひこのところは見詰め直してほしいという話であった。小学校にもプログラミ

ング教育や英語教育などが入ってくる中で、授業時間数を上回らずにできるのかという議論もあるが、そこは色々と工夫していただきたいということで、特別に言及があった。

それから、来年度の予算について、ICT、パソコンの今後の計画的な更新の予算が、11月5日に閣議決定されたということである。5年間使用してその後どうなるかという議論もあったようであるが、とりあえず、次の5年間についても決定され、1台5万5,000円（前は4万5,000円）の補助が出るという話であった。

それから、不登校対策について、最近マスコミ等で文部科学省が、不登校児童生徒が学校に戻らなくても良いという見解を示している、という報道があったが、それについて誤解が生じないように、令和5年11月17日に初等中等教育局長の通知が出された。

それによると、文部科学省としては、学校というのは大切な機関であるので、そこに不登校児童生徒が戻って適切な指導や支援が受けられるように、学校関係者には尽力していただきたい、という内容とのことである。原則と例外をマスコミが混同している、というような言い方を堀野氏はしており、そのことをしっかり説明していた。

以上、色々な部分の説明があったが、資料が135ページにわたって、膨大な物であったので、全て読み解くのは大変であるが、ぜひ秩父市の教育改善に国の施策を踏まえながら取り組んでいきたいと思った次第である。

また、後半は分科会があり、学校における働き方改革について秩父市を含め7市で研究協議を行った。それぞれ色々な取組を行っているという印象を受けた。

市長部局と連携をして先生方の負担軽減をしている、学校閉庁日の中に県民の日などの記念日を入れている、などの取組をしていることがわかった。

一つ驚いたのが、各学校で生成AIを活用して文章を作成していると、佐賀県武雄市の委員が発言していた。ChatGPTなどを積極的に学校で使っているのだと感じた次第である。

4 番 委 員 : 先ほど教育長から、無事に幼稚園・小中学校の2学期の終業式ができたという報告をいただいた。今年も大変多難な年であったが、教育長はじめ教育委員会事務局の皆様方には大変御苦勞をいただいたことに感謝申し上げます。

2点、報告する。

1点目、学校も年末年始の長期休業に入ったため、緊急事態発生時の危機管理体制の確認についてである。

前回定例会でも話題になったが、特に緊急時の連絡網の確認については、以前のようにPTAの会員名簿や、あるいは児童生徒への連絡網

をなかなか学校で作成できない状況になっているようである。個人情報保護が優先されるあまり、かえっていざというときに不足や混乱が生じないか、不安に感じている。いずれにしても前回定例会での事務局からの話により、保護者への連絡等については、一元管理で一斉送信するシステムができていているということを承知している。

ただし、一元管理も決して万能ではないので、トラブル発生時も想定した、次善の策も講じておく必要があるのではないかと思っている。また、保護者側からの学校への連絡方法、あるいは問い合わせの窓口については、十分に各学校から保護者に周知をされていると思うが、学校の正門前にある掲示板や、教育委員会、市役所の関係の掲示板なども利用して、何かあったときに学校以外で対応ができるようなものを一つ考えておくのも良いと思う。

何事も初期対応が大事なので、何か事故・事件が発生したとき、時間を置けば置くほど事態は悪化してしまう。本当にこれは緊急時の病院と同じで、それこそ救急患者と同じように、迅速な連絡・連携と、適切な対応、そういったもので仮にトラブルが生じたとしても、最低限度に抑えられるような、そんな対応策を考えていただければと思っている。

2点目、昨日の新聞に、茨城県境町猿島小学校の英語の授業に関するニュースが載っていた。

タイトルは、「【英語に克つ！】公立校でも先進英語教育 茨城県境町が英語に力を入れる理由」となっており、色々な事が書かれていた。人口は2万4,000名程度なので、秩父市の半分くらいであるが、ここに、去年は1,245人が転入してきたということである。なぜかという、英語教育を含めた手厚い子育て支援策に魅力を感じた移住者が増えているからであり、全ての小・中学校に平均3人のALTが常時配置されているなど、英語教育を中心として地域の魅力をアピールしていこうという町の姿勢があるためである。

本市も人口減少によって若者に来てもらおうということで、色々な計画している中では、やはり企業誘致が最大の柱にはなっているが、教育でもこれだけの移住者を増やすことができると思って改めて驚いた。教育全体で言えば、知・徳・体とよく言われるが、学習の柱というのは、生徒の情報活用能力を育てること・ICT教育、それと、英語力を育てること・英語教育、この2本が柱となっている。こういうところでしっかりと人材を育成資金として、町を上げて取組をしており、かなりの経費・予算も教育の方に使っている。

この取組が秩父市の参考になるのでは思ったとき、ちょうどいいタイミングで、今秩父高校と皆野高校が新校設立の準備中となっている。新校も国際系の学科を検討しているとのことなので、地域全体が英語に力を入れていることを示すためにも、秩父市の小・中学校がしっかりと

と英語教育に取り組むことということを、もう一度検討いただければありがたいと思う。

教育委員会で作っている冊子「秩父市の教育」を見て、教育研究所の取組として英語教育に対して、非常にきめ細かな授業や研修等が計画されているのを知っている。素晴らしい取組と思っているが、さらに充実させる方向に向け、境町のそういった教育実践、取組等も一つのモデル、参考となるのではないか。

そういう意味では、英語教育の先進地視察ということで、他地域の先進的な取組の授業を実際に行き、見て勉強してくるということも、次を考える上で大切なことだと思う。英語担当の教員にも本当に能力があって、色々と考えている教員も多いように感じる。そのような教員も連れて現地の方に赴き、先進的な取組を実際に見てくることによって、教員も学校も全体が養われてくるのではないかと思っている。

参考までに申し上げさせていただいた。

(2) 事務局からの報告事項

事務局長： 1点、報告する。

秩父市議会12月定例会の結果についてである。

秩父市議会12月定例会は、先月の定例会で報告したとおり11月21日から12月13日までの23日間の会期で開催され、付議したすべての議案が可決され無事終了した。

一般質問についても通告内容を先月の定例会で報告したが、「中学校での健康診断にピロリ菌検査を導入したらどうかという提案」「不登校予防対策として睡眠教育を導入したらどうかという提案」「防犯ブザーやクマよけホイッスルの音を市民に聞いていただく機会を設けたらどうかという提案」「教員の多忙化と子どもたちの現状に関するご質問」「市内小中学校の統廃合を見据えたご質問」などであった。答弁書を報告資料としてお手元に配布したので、後ほどご覧いただきたい。

学校指導監： 2点、報告する。

1点目、12月15日現在の市内中学校卒業予定者の進路希望状況についてである。

令和6年3月市内中学校卒業予定者は501名で、このうち全日制高等学校への進学希望者は477名である。その内訳は、県内国公立が406名、県内私立が55名、県外公立が2名、県外私立が14名となっている。

また、定時制高等学校への進学希望者が2名、通信制高等学校への進学希望者が8名、県内特別支援学校への進学希望者が6名、専修学校等進学・入学希望者が3名、就職等希望者が2名である。また、進路未定者が3名となっている。

2点目、市内幼稚園、小・中学校の終業式についてである。

12月22日、市内幼稚園、全小・中学校で終業式が行われ、無事2学期が終業した。インフルエンザ等の感染予防のため小・中学校21校中4校が一同に参集せず、各教室においてリモートで行った。

文化財保護課長 : 1点、報告する。

秩父祭で発生した、下郷笠鉾の車輪トラブルとその後についてである。

12月3日夜、下郷笠鉾が聖人通りを曳行していたところ、笠鉾の右前方の車輪で、内側にはめられている金輪の一部が、内側方向に外れた。下郷町会は、笠鉾を急遽停止させ、金輪をはめようと試みたが、上手くはめることができず、このまま、団子坂を曳上げるのは危険と判断し、御旅所への曳行を断念した。そのため、収蔵庫へ帰還するため、内側から金輪を叩き込むとともに車輪と金輪との隙間50か所に楔(クサビ)を打ち込む応急処置を行い、4日の早朝に収蔵庫に帰還することができた。

今後の対策を検討するため、12月10日の午後、国の選定保存技術である祭屋台等製作修理の技術保持者である市文化財保護審議委員2名や文化財保護課職員が下郷笠鉾解体现場へ赴き、当該車輪の調査を行った。打検検査や目視での状況確認の結果、焼き嵌めされている金具の経年劣化が原因であることが判明した。今後、下郷町会と関係者などで修理の方法を検討し、速やかに方針を固めて対応する予定である。

教育総務課長 : 1点、報告する。

スクールバス運行管理業務についてである。

遠距離通学児童・生徒の安心安全な通学支援を図るため、現在、尾田蒔小学校、吉田小学校、荒川西小学校、荒川中学校において、スクールバスを運行している。

今まで、競争見積方式で最安値の業者と契約を結んでいたが、十分な安全管理を行い、確実に業務を遂行できる業者を選定する必要があると考え、来年度からは、公募型プロポーザル方式で選定した業者と契約を締結したいと考えている。

すでに12月15日から公募を開始し、来年1月15日が提案書等の提出期限となっている。その後、一次審査となる書類審査、業者からのヒアリングを踏まえた二次審査(選定会議)を行い、1月下旬に契約候補事業者を選定する予定である。契約候補事業者とは、業務委託の詳細について十分に協議を実施した上で、3月中旬から下旬に契約を締結する予定で、契約期間は、令和6年4月1日から令和9年3月31日までの3年間となっている。

なお、影森小学校でもスクールバスを運行しているが、市営バス浦山線との混乗型で対応しており、市営バスを所管する市民生活課で契約

業務等を行っている。

学校教育課長 : 2点、報告する。

1点目、旧荒川幼稚園の解体事業についてである。

令和3年3月に閉園した荒川幼稚園は、今年の10月27日に地元の荒川建設株式会社と解体工事の契約が整い、電気設備や機械設備の解体工事等を済ませ、来年から園舎の解体へと工事が本格化していく。工事の進捗状況によって変わる可能性もあるが、現在のところ、契約工期の3月22日までに解体工事を終了させ、3月末をもって地権者へ土地を返還する予定である。

2点目は、来年1月20日に実施予定の「非行防止サッカー教室」についてである。

この事業は、非行少年を生まない社会づくりの一環として、非行防止教室、プロスポーツ選手による講話や実技指導を通して、ルールやマナーを守ることの大切さを体得させることにより、非行防止と規範意識の醸成を図ることを目的に、埼玉県警察本部が実施するものである。

当日は、秩父第一中学校のグラウンドを借用し、午前9時から12時までの約3時間、浦和レッズハートフルクラブのコーチ・スタッフ等が7人程度参加し、中学生とサッカーによる交流を通じた非行防止サッカー教室を行っていただく。各中学校へ参加を呼び掛けたところ、約50名の生徒が参加する予定である。

保健給食課長 : 2点、報告する。

1点目、12月21日の秩父第一中、高篠中、影森中を最後に2学期の給食提供が無事終了した。3学期は、影森小学校を除く各学校は1月10日から、影森小学校は1月11日から提供開始となる。引き続き、安心安全な給食提供をしていきたい。

2点目、12月中における児童生徒及び教職員の感染症感染状況についてである。

12月26日現在、新型コロナウイルス感染症の感染者については、小学生11人、中学生5人、教職員1人と落ち着いている状況である。一方インフルエンザについては、小学生は感染者218人、学級閉鎖13学級、学年閉鎖3学年、学校閉鎖1校、中学生は感染者121人、学級閉鎖4学級、教職員は感染者6人となっており、先月同様、多数の感染者が出たが、2学期最後の週であった先週は、だいぶ少なくなってきたようである。

冬休みの間は学校での感染拡大はないが、来年、休み明けの感染状況について注視していきたいと思う。

教育研究所長 : 1点、報告する。

令和5年度オンライン英会話レッスンの実施報告である。

令和3年度に始まり3年目の実施となった本事業については、10

月21日、11月4日、11日、18日の4回レッスンを実施した。本事業のアンケートが集約できたので報告する。延べ参加者数は69名となっており、児童生徒及び保護者の方々から、多くの関心を寄せられている事業であった。次年度もより多くの児童生徒に参加していただけるよう、内容の充実はもちろんのこと、事業についてのPRを推進していく。アンケートの内容は、「ALTとの会話を楽しむことができたか」の質問に対して、「十分できた」「できた」が昨年度に引き続き100%となっており、参加した児童生徒にとって十分満足していただけた事業であったと考えている。

参加者のうち、2人の感想を紹介する。

「去年もレッスンにも参加しましたが、今年のレッスンでは、前よりも英会話力が上がっていたと思うし、使える表現も増えて楽しく会話出来たと思うのでよかったです。早く返答できなかつたり、たくさん間が空いてしまつたりしたことが多かつたのが反省点なので、これからの学校の授業や、もっと単語力、コミュニケーション能力をつけて、勉強に活かしていきたいです。」

「英語を習っていても、秩父にいるとなかなか英語を使わないといけない事がないので、ALTの先生方と会話する事で、アウトプットする機会が増え、より身につくと思います。」

本事業は、ALTによるオンラインでのマンツーマンでの英会話レッスンという貴重な経験ができる内容となっており、英語教育の学習意欲の向上に資するものと捉えている。教育研究所では、次年度も児童生徒が、学ぶことが楽しいと感じ、興味関心につながるよう創意工夫し、各種事業の実施に取り組んでいく。

なお、英検ナイトスクール夜勉については、12月19日に最終回を終え、参加者の感想等を集約しているところであるので、次回の定例会で紹介できるように準備を進めたい。

(3) 補助執行に関わる報告事項

教 育 長 : 補助執行に関わる報告事項は、今回、特にない。

【質疑・応答】

2 番 委 員 : 給食に関してお聞きする。

来年の1月24日から30日まで全国学校給食週間があるが、秩父市で何か取組があつたら教えていただきたい。

それから、前回の定例会で報告のあつた、6月と11月が彩の国ふるさと学校給食月間ということで、特別なメニューを組んだようであるが、このときの児童生徒の反応、例えば残食数などを含めて、何かわかることがあれば教えていただきたい。

保健給食課長 : 当市では、委員からも話があった、先月の彩の国ふるさと学校給食月間において地産地消の物を提供させていただいているので、1月24日から30日までの全国学校給食週間で、特に給食の内容について地元の物をたくさん使うことなどは予定していない。ただし、給食だよりや食育だよりなどで、全国学校給食週間についての紹介をしているので、それが各学校での取組となっている。

また、彩の国ふるさと学校給食月間の給食における児童生徒の反応であるが、事務局で学校での様子を見に行っていないので、申し訳ないが、わからない状況である。残食状況についても、日々の残食数と分けて集計していないので、特に多いということも、少ないということもなかったように思う。

6 議案審議

教 育 長 : 議案審議に関わる議題は、今回、特になし。

7 協議事項

(1) 後援等について

教 育 長 : 後援等について、説明を求める。

教育総務課長 : 別紙のとおり、7件の協議をお願いします。

教 育 長 : 質問がないようなので、ここで委員の皆様にお諮りするが、全ての事業について、後援等を承認することでいかがか。

(「異議なし」という声あり)

それでは、今月の後援等について、ただいまのとおり決したので、事務局には、今後の処理をお願いします。

(2) 1月教育委員会定例会の日程について

教 育 長 : 定例会の日程について、説明を求める。

教育総務課長 : 1月教育委員会定例会について、1月23日午後2時から本庁舎3階庁議室において開催することを御提案させていただく。

(「異議なし」という声あり)

教 育 長 : それでは、1月教育委員会定例会については、1月23日午後2時から、本庁舎3階庁議室にて開催する。

8 その他

各 委 員 : 特になし。

事 務 局 : 特になし。

9 閉会

教 育 長 : 他に付議すべきことがなければ、本日の日程を全て終了する。
以上をもって、秩父市教育委員会12月定例会を閉会する。